ちょっと名大史

253

中央図書館外観の変遷

名大の東山キャンパスにある中央図書館は、このたびのコモンネクサス（愛称コモネ）の新営により、その外観が大きく変わることになりました。今回は、建設されてから約45年間の変遷をたどってみましょう。

現在の中央図書館が竣工したのは、1981（昭和56）年のことです。名大のシンボルかつキャンパスの中心である豊田講堂と、第1、第2グリーベルトを挟んで向かい合う形で中央図書館が建設されたことにより、東山キャンパスの景観は一新されました。これにともない第2グリーンベルトも整備され、豊田講堂側から見た中央図書館の基本的な外観は長くこの状態が続きます。

ただ、裏側（第3グリーンベルト側）から見た外見は、1994（平成6）年竣工の増築によって大きく変わり、現在のようになりました。元々中央図書館は、予算が十分に確保できず、新築時には当時の名大に必要と考えられた床面積を大きく下回る状態でした。それでも、将来の増築を想定して建設されていたのです（写真2）。

次に外容が大きく変化したのが、2014（平成26）年の耐震・全面改修工事です。内装面でも大きなリニューアルが行われたのですが、外装が赤レンガ基調の茶色から白基調に塗り替えられたのが何と言っても印象的です（写真3）。向かい合う豊田講堂を意識しての色だそうですが、その後久しぶりに来学した卒業生は、まずこれに驚いたのではないでしょうか。

そして2025（令和7）年7月1日、コモネがオープンしました。中央図書館そのものの外見は変わりませんが、遠景の変化には劇的なものがあります（写真4）。

ところで、2022年に公表されたキャンパスマスタープランでは、30年後を見すえた長期プランとして中央図書館の半地下化が構想されています（写真5）。私たちは、そう遠くない未来に、再び中央図書館の大きな外観の変化を見ることになるのかもしれません。

1

3

5

2

4

1　竣工直後の中央図書館（1981年）。
2　1994年増築前の中央図書館の裏側（1989年）。
3　耐震・全面改修工事後の中央図書館（2014年）。
4　コモネ屋上から見た中央図書館（2025年8月撮影）。
5　30年後の東山キャンパスイメージ図（出典:名古屋大学キャンパスマスタープラン2022、写真撮影：谷川ヒロシ）。

BRIEF HISTORY OF NAGOYA UNIVERSITY

名古屋大学の卒業生、
現役・退職後の教職員の方々へ

名大史をつむぐ資料を大学文書資料室に！

■ **在学時の配布物**
（学生便覧、シラバス、試験問題、課外活動の資料…）
■ **教育・研究活動、大学・部局運営に関する資料**
（各種書類、会議のメモ、備忘録、スクラップ記事、写真…）
■ **校費による印刷物・刊行物**
（冊子、パンフレット、ポスター…）
■ **ご退職関係の記念冊子・記念論集・業績集…　など**

※その他、ご処分予定の資料についても、まずは下記へご一報ください。

東海国立大学機構大学文書資料室
TEL 052-789-2046
Mail nua_office@cc.nagoya-u.ac.jp